



経営者になる、はかつては憧れの言葉だったと思う。それは人生の成功者としての表現の一つでもあった。私など団塊の世代は常に競争にさらされていたので、それに勝ち抜く、つまり出世する、ということがお互い

圧倒的に重い、ということだろう。中小企業であればあるだけトップ一人の判断が経営を左右してしまうからだ。加えて近年は言葉などの制約も多く、パワハラ、セクハラといったことにはかなり神経質にならざるを得ない。相手がそうと受け取ってしまうえば、ということが原則

だからなかなか難しい。

暗黙の了解事項だった。しかし近年の大学生のアンケートなどを見ると極めて現実的な回答が目立つ。一方

経 業 小 中  
愁 哀 者 営



草野 義輔

採用時は確かに経営側に決定権があるが、いったん正規採用となれば、通常やめる自由は働く側に

でIT長者なる言葉もあって、チャンスをつかめば莫大な収入を得ることも可能な時代だ。

あるといえる。今話題の働き方改革も経営側に多くの対応が要求されている。こんな状況だから経営者なんか、と学生がそっぽを向くのも当然かもしれない、とついっ

私も極めて小さいながらも私立学校の経営者になってはいる。しかし居心地が良いかといえは、その地位に就く前と後ではかなり違って見える。一番はやはり責任が

(昭和学園高校理事長・日田市)